魅力発信！えひめ農業

令和8年8月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興
※2　この動向は、8月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町４丁目 4-2
（TEL）089-912-2558
（FAX）089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

魅力発信！えひめ農業

令和8年8月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興
※2　この動向は、8月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町４丁目 4-2
（TEL）089-912-2558
（FAX）089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

目次

目次 1
８月のトピックス５選 3
ニホンザルの行動実態を把握するための GPS 調査を開始 3
新規就農者確保に向けた PR 動画を撮影 3
基盤整備園でラジコン草刈り機の操作を体験 4
現場の声を町政へ！町長と語る愛南農業 4
西宇和かんきつ産地の未来を拓く、スマート農業フォーラムを開催 5
えひめ農業 6
■東予地方局地域農業育成室 6
担い手の育成について東予東部農業指導士会と協議 6
管内の課題について先進事例から学ぶ視察研修会を開催 6
さといも「親芋直接採取増殖法」で生育の前進化と早期収量の増収を確認 7
水稲再生二期作ほ場において出穂を確認 7
土壌分析の専門家を講師に招き研修会を開催 8
■東予地方局地域農業育成室四国中央農業指導班 8
学校給食米収穫体験と食育クイズで農業の理解促進 8
■東予地方局産地戦略推進室 9
ドローンによるいちごハウスでの遮熱塗布剤散布技術見学会の開催 9
■今治支局地域農業育成室 9
就農予定者に経営開始前研修を実施 9
就農初期農業者へ経営・技術指導を実施 10
施設園芸高温対策の実証を開始 10
■今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班 11
再編復旧園における排水対策の実施状況を確認 11
大三島地域でイノシシ被害対策に取り組む新規就農者等を指導 11
傾斜地レモン園でドローン施肥を実演 12
■今治支局産地戦略推進室 12
地元企業と連携した地域農産加工品の販促支援について 12
■中予地方局地域農業育成室 13
いちご炭疽病の診断と栽培管理の点検を実施 13
現地で新規就農者を指導 13
防除威嚇機による鳥類被害対策の実証を開始 14
愛媛果試第 28 号 100％ジュースで消費者へ情報発信 14
青年農業者らが食料品の消費税減税等について学ぶ 15
JA 松山市青年部が下難波地区の基盤整備園で視察研修を実施 15
■中予地方局地域農業育成室伊予農業指導班 16
七折小梅の安定生産へ　～栽培管理を徹底～ 16

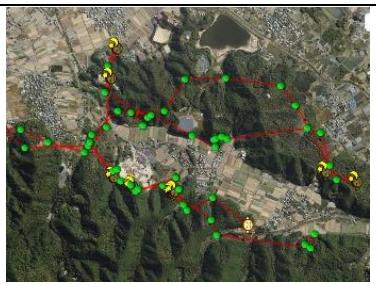
「ひめの凜」の品質向上に向けた穂肥講習会を開催 16
健全な果樹園を目指して土壌分析を実施 17
広田自然薯組合夏季研修でハダニ類防除等を指導 17
伊予農高グローバルGAP更新へ講義と内部審査を実施 18
伊予花き研究会が県内花き生産者と共に市場関係者に生産物をアピール 18
■中予地方局地域農業育成室久万高原農業指導班 19
雑穀栽培講習会の開催 19
久万高原トマトの秀品率が大幅アップ 19
■中予地方局産地戦略推進室 20
調査・実証結果をそらまめ生産者へ普及 20
鉢物栽培において環境データの活用を支援 20
■南予地方局地域農業育成室 21
特栽米「三間米」の生産・販売を支援 21
青年農業者の出会いを応援！ 21
■南予地方局地域農業育成室鬼北農業指導班 22
桃の新規生産者が鬼北町で誕生 22
栗生産においてドローン防除への期待が膨らむ 22
■南予地方局地域農業育成室愛南農業指導班 23
青年農業者が地域を超えて交流・技術研鑽 23
■八幡浜支局地域農業育成室 23
青年農業者らが農作業安全について学ぶ！ 23
■八幡浜支局地域農業育成室大洲農業指導班 24
大洲喜多地区女性農業者組織ネットワークの活動強化に向けて連携会議を開催 24
天敵を活用した抑制きゅうりの害虫防除実証を開始 24
安全安心な秋冬野菜の栽培に向けた研修会を開催 25
■八幡浜支局地域農業育成室西予農業指導班 25
定期巡回でトマトキバガの対策順調！ 25
いちごの育苗ハウスで高温対策の実証開始 26
■八幡浜支局産地戦略推進室 26
青ねぎの気候変動対策に遮光ネットが効果あり 26
■農産園芸課高度普及推進グループ 27
データ駆動型施設野菜栽培実証事業に係るデータ分析・活用講習会、製作講習会を開催 27
令和８年度愛媛県スマート農業推進協議会を開催 28

８月のトピックス５選

標　題	ニホンザルの行動実態を把握するための GPS 調査を開始		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 12 日	場所	西条市吉岡地区	
指導対象	地元農業者（６人）	連携機関	NPO 法人西条自然学校、東予猟友会、西条市	
普及指導内容	○西条市西部で被害を及ぼしているサルの群れの行動域等を把握するため、地元の専門家の協力を得て、捕獲した１頭に GPS 首輪発信機を装着し調査を開始した。 ○被害を及ぼしている群れは、100 頭以上の大型の群れで、南北 5.5ｋｍ以上を定期的に移動していると推測されるものの、その行動実態や隣接して生息する別の群れとの生息の区分等については正確に把握することができていなかった。			
結果と今後	○11 月に設置した大型の地獄檻で、８月１日より３回、計 18 頭を捕獲し、その内のメス１頭に GPS 首輪発信機を装着したところ、群れは１日で３km 以上を移動し、現在は２つの集落の間に位置する小山を拠点にして、両集落の米や野菜に被害を及ぼしていること等が分かった。 ○今後、GPS 調査の結果を基に、群れの詳細な行動実態等を明らかにすることにより、捕獲の効率化や被害対策の推進を図る。			


大型地獄檻での群れ捕獲


GPS 首輪発信機の装着


GPS 移動経路

標　題	新規就農者確保に向けた PR 動画を撮影		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年８月３日、６日、12 日	場所	今治市内各地	
指導対象	研修生、新規就農者等（10 人）	連携機関	JA おちいまばり、今治市	
普及指導内容	○当室では新規就農者確保に向け、今治地域農業の魅力や新規就農者の経営状況等を紹介する動画を作成しており、昨年度はかんきつバージョンを作成した。 ○今年度は、主要品目である野菜バージョンを作成することとし、撮影指導を実施した。			
結果と今後	○動画は、研修生と受入れ農家から農業研修の実施内容について、雇用就農者からは仕事としての農業について、先輩農業者からは農業の魅力ややりがい等について紹介する内容となっている。 ○今回撮影した動画は、県内外に出展予定の移住・就農・就業相談会で活用するほか、県や関係機関の HP、SNS 等での掲載も予定しており、積極的な活用と効果的な露出を通じ、新規就農者や移住就農者等の確保につなげていく。			


研修生と受入れ農家へインタビュー


先輩農業者へインタビュー


作業風景を撮影

標　題	**基盤整備園でラジコン草刈り機の操作を体験**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 26 日	場所	松山市浅海	
指導対象	中予地区柑橘農業復興・再編ワーキングチーム（30 人）、浅海原・堀江・難波地区基盤整備受益農家（12 人）	連携機関	JA（えひめ中央、全農えひめ）、ISEKI アグリ、アテックス、やまびこジャパン、キャニコム、今治ヤンマー、農村整備第一・二課	
普及指導内容	○基盤整備園の早期成園化とスマート農業の推進を目的に、「中予地区柑橘農業復興・再編ワーキングチーム会」を開催した。 ○室内検討会では、基盤整備状況を関係機関で情報共有するとともに、当室より緑肥栽培の実証結果として、有望草種やは種後の管理方法などを紹介した。 ○浅海原地区の基盤整備園では、９台の草刈り機（うちラジコン６台）による実演後、生産者等が実際に操作を行い、作業の省力化や性能の違いを体験した。			
結果と今後	○これらの草刈り機は、作業の省力化に大きく貢献することから、当室では基盤整備園での普及促進を図る。 ○また、引き続き、新たな整備地区を含めて秋播き緑肥の栽培実証を行い、土壌改善の浸透を図る。			



室内検討会

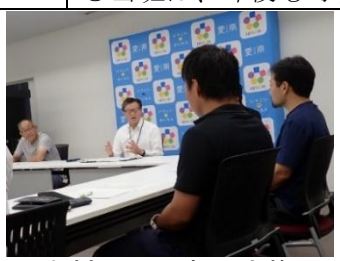


実演した９台の草刈り機



ラジコン草刈機の操作体験

標　題	**現場の声を町政へ！町長と語る愛南農業**		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和８年８月 12 日	場所	愛南町役場	
指導対象	愛南町認定農業者協議会、愛南地区青年農業者協議会（参加者 14 人）	連携機関	愛南町	
普及指導内容	○「農業者の声を町政に反映させよう」との地元農業指導士の発案を受け、両協議会の主催により、中村町長との意見交換会（農業経営研修会）を初めて開催した。 ○当班は、会員への積極的な意見提出の呼びかけや、寄せられた意見等を整理・集約し、当日の会が円滑に進むよう、本会運営を支援した。			
結果と今後	○異常気象対策（農業用水確保）やスマート農業による省力化、労働力確保のためのインフラ整備などの要望・提案に対し、町長自らの誠実な回答を得た。 ○参加者は「首長から直接説明が聞けて良かった」「難しい課題も前向きに考えてくれていることが分かり、嬉しかった」など、謝意を表すとともに、それらを行政任せにせず、自分たち農業者側も積極的に協力していく意向を伝えた。 ○当班は、今後も町政に農業者の声が届くよう、一層の連携を進める。			



中村町長と意見交換



意見交換後の集合写真

<table>
<tr><td>標　題</td><td colspan="2">西宇和かんきつ産地の未来を拓く、スマート農業フォーラムを開催</td><td>機関名</td><td>八幡浜支局地域農業育成室</td></tr>
<tr><td>年月日</td><td>令和８年８月 28 日</td><td>場所</td><td colspan="2">八幡浜支局</td></tr>
<tr><td>指導対象</td><td>管内農業者、関係機関職員(約 80 人)</td><td>連携機関</td><td colspan="2">果樹研究センター</td></tr>
<tr><td>普及指導内容</td><td colspan="4">○西宇和スマート農業推進協議会は、かんきつスマート農業技術の実証成果や優良事例を管内生産者らに広く周知し、現地実装を進めることを目的に「未来につなぐ西宇和スマート農業フォーラム 2026」を開催した。
○フォーラムでは、果樹研究センターによる省力施肥技術に関する講演のほか、篤農家の黒田伊智男氏による環境計測装置のデータ活用事例や、川之石高校によるドローンを活用した可変施肥等の取組事例の発表があった。</td></tr>
<tr><td>結果と今後</td><td colspan="4">○労働負担を大幅に軽減することが可能となるスマート農業への期待は年々高まっており、参集した農家は自らの経営改善に繋げようと熱心に聞いていた。
○中でも、経験則と観測データを生かしたマルドリ栽培により連年高品質安定生産を実現している黒田氏の事例発表は、参加者の関心が特に高く、その技術を少しでも学ぼうとする様子がうかがえた。
○当協議会では、引き続き、地域の実情に応じたスマート農業の確立と普及を目指す。</td></tr>
<tr><td colspan="5"> 
左：スマート農業事例発表
右：スマート農業機器の展示
【西宇和スマート農業推進協議会】
・スマート農業の現地実装に向けて令和３年度に設立
・構成団体：県、市町、JA、生産者、農機メーカー</td></tr>
</table>

えひめ農業

標　題	担い手の育成について東予東部農業指導士会と協議		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月４、17 日	場所	西条市氷見、三芳	
指導対象	農業指導士等（16 人）	連携機関	四国中央農業指導班	
普及指導内容	○東予、四国中央管内の農業指導士が参加する東予東部農業指導士会と、今後の新規就農者の支援方法等について話し合う会を開催した。 ○同会は、当室の依頼を受け新規就農業者をサポートする「農家アドバイザー」として活動しており、本年度から開催している「東予担い手ステップアップ研修会」の講師や、若手農業者組織と議論するパネルディスカッションでもパネリストとして参加し若手農業者の育成に取り組んでいる。			
結果と今後	○４日には、高温対策に取り組む新規就農者が農業指導士から、直接生産現場で指導を受けた。 ○また、会では、地域の若手農業者を育成、定着させるための今後の支援活動について意見交換を行った。 ○当室は、引き続き管内の農業指導士等と連携しながら、若手人材の育成や世代間の交流促進を図る。			



東予東部農業指導士会



担い手育成に向けた協議



農業指導士との高温対策指導

標　題	管内の課題について先進事例から学ぶ視察研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月４日	場所	松山市内各地、東温市内各地	
指導対象	認定農業者、青年農業者等（28 人）	連携機関	西条市、新居浜市、JA（周桑、えひめ未来）	
普及指導内容	○東予担い手ステップアップ研修会の第４回講座として、管内で課題となっている若手への事業継承の先進事例等を学ぶ研修会を開催した。 ○本研修会は、本年度より新規就農者だけでなく幅広い世代の農家が参加できる形に改編し、農家間の交流も図りながら幅広い知識を学べる講座として開催している。			
結果と今後	○研修会には、若手からベテランまで幅広い農業者が参加し、中予地区の農業法人等が取り組む事業継承に向けた職員の育成やかんきつの基盤整備事業の取組、温暖化を逆手に取ったアボカド栽培の現場を視察し、視察先の事業者を交え意見交換を行った。 ○当室は、引き続き全９回の講座開設等を通じ、若手人材の育成や世代間の交流促進を図る。			



基盤整備果樹園の視察



アボカド栽培の視察



事業承継についての意見交換

標　題	さといも「親芋直接採取増殖法」で生育の前進化と早期収量の増収を確認		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 25 日	場所	西条市、新居浜市内各地	
指導対象	さといも増殖実証農家（３人）、 集落営農法人（２法人）、（株）中温	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）	
普及指導内容	○廃棄する親芋から無病な種芋を採取する「親芋直接採取増殖法」等の技術確立に向け、実証ほを管内６か所に設置しており、生育・収量調査を実施した。 ○同増殖法は、前年の親芋を昼夜一定の高温（28℃）で加湿し種芋とする技術で、加温中に分化する葉や根の細胞分裂が高温下で促進され初期生育が旺盛になる。 ○本年度からは、慣行栽培の種芋についても定植前に高温で加湿処理を行い、試験区を設けて生育促進、増収効果等を確認している。			
結果と今後	○親株直接採取増殖法の区は、草丈は 230 ㎝、１株の収穫量が 2,400ｇ以上となり（慣行栽培区：1,500ｇ）、慣行栽培区に比べ、収量増加を確認した。 ○また、親株増殖区では、慣行栽培区よりも多くの子芋、孫芋を早期に着生、肥大させながらも、草丈を伸ばしている株を多数確認しており、今後の収量増を見込んでいる。 ○今後も実証結果を基に、本技術による増収効果の確認と技術普及に取り組む。			



親芋区の草丈の調査



掘り上げた株（親芋区）



収量調査（親芋区）

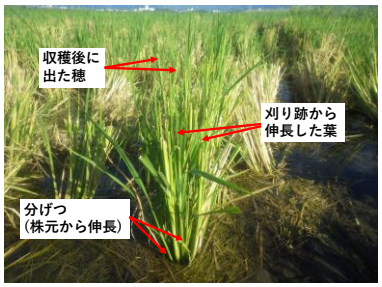
標　題	水稲再生二期作ほ場において出穂を確認		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 19 日	場所	西条市高田、三芳	
指導対象	水稲再生二期作実証農家（２戸）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	○管内で水稲の再生二期作の栽培実証に取り組む２戸の生産者に対し、一期目の収穫前後の栽培管理について指導した。 ○実証ほでは、「にじのきらめき」を４月から５月上旬に移植しており、８月 12 日に 30～35cm の刈り高で収穫し、直後に追肥と入水を行った。			
結果と今後	○収穫直後の追肥と入水により、１週間後には刈り跡から穂及び葉が伸長し、株元から分げつが伸長しており、順調に早期の再生に向かっている。 ○今後は、二期目の生育及び収量調査の結果を通じて、適応する品種や栽培時期を検討するとともに、栽培期間中の留意事項等を明らかにし、当栽培方式の技術確立を図る。 ○９月 16 日に開催する「東予担い手ステップアップ研修」において、当技術の概要を現地等で説明予定。			



収穫前のほ場



収穫１週間後のほ場

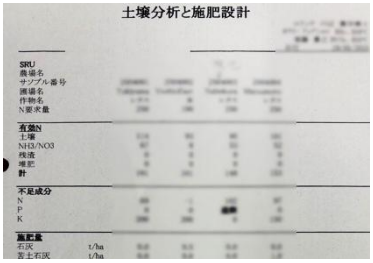


二期作目の生育状況

標　題	**土壌分析の専門家を講師に招き研修会を開催**		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 10 日	場所	松山市民会館	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会員等（42 人）	連携機関	西条市、新居浜市、大洲市 大洲農業指導班	
普及指導内容	○西条地区青年農業者連絡協議会は、大洲市青年農業者協議会と合同で、土壌分析の手法等を学ぶ研修会を開催した。 ○講師である尾藤氏は、北海道芽室町で約 130ha の畑作経営し、品質向上のために土壌の分析結果から徹底した土壌改善に取り組み、土壌中の微生物活性化とミネラルバランスを整えることにより自社製品のブランド化に成功している。			
結果と今後	○研修会では、参加者から事前の土壌分析結果を基に、具体的な土壌改善の手法が質問されるなど、活発な意見交換が行われた。 ○研修会後には、講師と相互の協議会員による情報交換会が開催され、生産物の単価を上げるための取り組み等についても情報交換が行われた。 ○今後も地区内及び他地区の組織との交流を推進し、青年農業者の育成を図る。			



土壌診断研修会



事前の土壌分析による施肥計画書



他地区農業者との情報交換会

標　題	**学校給食米収穫体験と食育クイズで農業の理解促進**		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和８年８月 22 日	場所	愛媛さといも広域選果場及びほ場	
指導対象	四国中央市内の小学生及び保護者（263 人）	連携機関	四国中央市、JA うま、NOSAI えひめ	
普及指導内容	○当班は関係機関と連携し、市内小学生と保護者を対象に毎年「学校給食米収穫祭」を実施し、地産地消を推進している。 ○稲の収穫体験、食育講座及びおにぎりづくりを行い、農業への関心と理解促進に努めた。当班は食育講座を担当し、米の栽培やごはんの栄養、地域農産物に関するクイズを出題し、親子で楽しく学ぶ場を提供した。			
結果と今後	○「最初は鎌を使うのが難しかったけど楽しかった」「田植えから４カ月で稲刈りは思ったより早い」などの声があり、米や農業への興味関心が高まった。 ○学校給食米は、市内 51 戸の農家がコシヒカリ等を農薬と化学肥料を通常の半量に抑え栽培しており、今年度も２学期から新米「うまそだち」として全小中学校に提供される。 ○当班は今後開催予定の学校給食交流会においても地産地消の推進を行い、小学生に農業の魅力を発信する。			



稲の収穫体験



食育クイズを行う普及指導員



おにぎりを作る親子

標　題	ドローンによるいちごハウスでの遮熱塗布剤散布技術見学会の開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和８年９月１日	場所	西条市丹原町いちご生産者圃場	
指導対象	JA 周桑いちご生産者（14 人）	連携機関	JA 周桑、農産園芸課	
普及指導内容	○当室では、いちご定植後の高温による生育不良対策として、気候変動適応産地づくり総合対策事業を活用し、外気導入装置と遮熱塗布剤を利用したハウスの高温対策について実証試験を開始した。 ○この度、農産園芸課高度普及グループと連携し、管内いちご生産者を対象にドローン（DJI 製 T-70）を用いた遮熱塗布剤の省力散布技術の見学会を開催した。 ○見学会では作業受託業者が大型ドローンでハウス２棟（８a）に僅か 20 分で散布を完了する実演を行った。			
結果と今後	○参加者からは作業委託費用についての質問があり、想定より低コストである点に関心を示した。 ○今後は外気導入装置と遮熱塗布剤の効果を検証するため、ハウス内温度の測定やいちごの生育状況を継続して確認し、夏秋期の高温対策技術の普及を推進する。			


ドローン散布の実演


遮熱資材散布前のハウス


遮熱資材散布後のハウス

標　題	就農予定者に経営開始前研修を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年８月５日	場所	JA おちいまばり本店	
指導対象	就農予定者（11 人）	連携機関	（株）日本政策金融公庫、今治市、上島町、JA（おちいまばり、今治立花）	
普及指導内容	○JA の研修施設等で生産技術を習得中の研修生等を対象に、認定新規就農者制度や農業経営開始時に必要な制度資金・補助事業等の活用に向けた研修会を開催した。 ○実際の就農に向け、各自が目指す経営ビジョンや目標を明確にし、綿密な青年等就農計画書を作成することや、就農初期に必要となる資金や補助事業の活用について各担当機関からの説明を行った後、個別相談を実施した。			
結果と今後	○参加者からは、「制度資金や補助事業等の情報を得て、就農に向けた準備を進めることができる」「相談窓口やサポート体制を知り、就農に向けての不安が解消できた」等の感想が聞かれた。 ○当室は今後とも関係機関と連携の上、就農計画の作成や補助事業の活用などのサポート体制を強化し、支援していく。			


就農までの準備について説明


先輩新規就農者からの体験談


個別相談で情報収集する参加者

標　題	**就農初期農業者へ経営・技術指導を実施**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 14 日、19 日、20 日	場所	今治市内各所	
指導対象	経営開始資金等受給者（14 人）	連携機関	今治市、JA おちいまばり	
普及指導内容	○就農サポート支援チームでは経営開始資金等の受給者を対象に、個別面談による経営状況の確認や栽培ほ場での技術指導等を実施した。 ○面談では、直近の決算書や作業日誌等の確認のほか、青年等就農計画の計画達成状況と課題の聞き取り、栽培ほ場の管理状況確認と栽培技術指導などを通じて経営改善に向けた指導助言を行った。			
結果と今後	○対象者は新規参入者が９人、Ｕターン５人、作目別では野菜栽培７人、かんきつ栽培が６人、畜産１人で農業収入は多くが前年を上回っているが、初期の施設整備や農薬・肥料等に係る経費の割合が大きく、約５割が所得目標を達成できていない。 ○今後は、支援チームが核となり、早期の経営確立・安定化に向け技術習得支援及び経営改善に向けた補助事業や制度資金の活用等の指導を継続し、地域農業の担い手として育成していく。			



経営状況等を関係者で聞き取り

【就農サポート支援チーム】
JA・愛媛県・今治市・上島町が連携し、就農希望者・新規就農者等をチームで支援。県内外の就農相談会の個別相談から、現地での研修受け入れ、就農後のフォロー、定着まで関係機関で支援活動を行っている。

標　題	**施設園芸高温対策の実証を開始**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 31 日	場所	今治市朝倉上	
指導対象	今治市内いちご生産者（１人）	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	○定植直後のいちごに対する高温対策の一環として、「気候変動適応産地づくり総合対策事業」を活用し、いちご実証ほに施設内の気温低下を目的とした外気導入装置を設置した。 ○併せて、外気導入装置の効果的な使用方法について生産者と協議を行い、装置を活用した栽培管理を指導した。			
結果と今後	○今回は、いちごの夏秋期の高温対策として４連棟ハウスに外気導入装置３台を設置し、９月１日から実証を開始することとしている。 ○今後、ハウスの屋根に遮熱資材を塗布し、設置した外気導入と併せて、いちごの生育への影響を調査し、高温条件下でも安定した収量・品質を確保できる栽培技術の確立を目指す。			



実証ほの設置作業

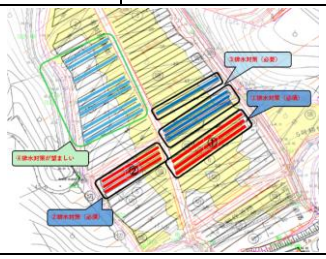


設置した外気導入装置



装置の使い方について指導

標　題	再編復旧園における排水対策の実施状況を確認		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和８年８月 24 日	場所	今治市上浦町盛	
指導対象	JA おちいまばり再編復旧園担当者 （１人）	連携 機関	今治支局農村整備課	
普及指導 内容	○豪雨災害からの営農再開を支援している盛地区の再編復旧園で、これまでに調査した土壌水分の分布特性を関係者で情報共有し、排水改善の方向性について現地で検討会を行っている（７月 29 日に実施）。 ○その結果を受け、排水性の改善を要する箇所での対策工事が８月下旬から始まり、今回は進捗状況の把握と土壌水分の調査を行った。			
結果と 今後	○地下水の浸出が多い場所を中心に、幅 30cm、深さ 80cm の排水溝を植栽列間に掘って、排水管の上に砂利を敷き詰めた暗きょを設置しており、工事が進むにつれて地下水の浸出も減少し、今後、排水改善が期待される状況を確認した。 ○引き続き、土壌水分の状況を調査して排水改善の効果を確認するとともに、水分分布の特徴を分析して、適切な自動かん水の活用につなげていく。			





左：排水改善が必要な箇所を特定
右：排水対策として植栽列間に暗きょを設置

標　題	大三島地域でイノシシ被害対策に取り組む新規就農者等を指導		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和８年８月 24 日、28 日	場所	今治市大三島町宗方、肥海	
指導対象	新規就農者（１人）、大型捕獲檻実証農家（１人）	連携 機関	－	
普及指導 内容	○大三島町宗方地区のかんきつ園地では昨年度からイノシシによる被害が問題となっており、新規就農者に対し、周辺の環境や園外周に設置してあるワイヤーメッシュ防護柵の状況を確認した。 ○併せて、大三島町肥海地区で実証している遠隔監視装置を活用した ICT 大型捕獲檻での取組状況を確認した。			
結果と 今後	○新規就農者の園地では、イノシシの侵入箇所が特定でき、被害防止に向けた対策の検討を開始した。 ○実証農家の大型捕獲檻では、餌付けによる檻内への誘導が的確に行われており、イノシシ成獣１頭の捕獲に成功。 ○本年度の同檻での合計捕獲頭数は成獣５頭となり、実証農家の捕獲技術の向上が図られている。 ○引き続き、新規就農者等に対して鳥獣害対策の実践能力の向上を支援するとともに、意欲的な農業者を中心に島しょ部に適した鳥獣害対策を推進する。			



イノシシの侵入痕跡



イノシシによる枝折被害



捕獲されたイノシシ

標　題	**傾斜地レモン園でドローン施肥を実演**		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和８年８月 27 日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	かんきつ生産者（３人）	連携機関	大信産業（株）	
普及指導内容	○しまなみ地域では、担い手の減少や高齢化が進む中で、ドローンを活用したかんきつ栽培の省力化、労働軽減を推進している。 ○今回は、しまなみ特産のレモン栽培で慣行の年４回の施肥がドローンを活用して年２回に減らす実演を行い、立地条件に応じた飛行ルートの設定方法や肥料の樹冠周辺への均一な散布を確認した。			
結果と今後	○作業時間は 10ａ当たり約 10 分と大幅な労働軽減が図られ、上空から散布した肥料による果実表面の傷や汚損等もなく、実用性が高い技術として期待された。 ○参加農家は、熱心に情報交換し、省力化に向けたドローンの活用に興味を示しており、引き続き、かんきつ栽培の省力化にむけたスマート機器の導入に向けた現地実証等を継続していく。			



飛行ルートの設定を検討中



上空から肥料を散布するドローン



散布された肥料（白い顆粒）

標　題	**地元企業と連携した地域農産加工品の販促支援について**		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和８年８月３日	場所	伯方島テラス（今治市伯方木浦）	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ会員	連携機関	クリエイション伯方島	
普及指導内容	○７月 19 日(日)、「伯方島テラス内のカフェ」のプレオープンにあたり、会員とともに営業活動を展開した。 ○「しまなみみんなのディッシュ」の活動内容、商品の PR 及び交渉手法等について、実践を通じて指導した。			
結果と今後	○「大三島みんなのワイナリー」のワインが「伯方島テラス内のカフェ」のメニューに採択され、８月３日から提供が開始された。 ○本年３月に先行開業した「伯方島テラス内のアンテナショップ」には既に常設コーナーを設置しており、今回の採択は継続的な取引の中での成果である。 ○今後、同施設では宿泊施設の整備も予定されていることから、かんきつ等の青果を含めた新たな商品の提案やしまなみ地域の食材・農業の魅力発信ができるようなイベント企画を提案するなど、地元企業と連携した取組みを進め、事業者の所得向上と地域活性化に寄与する。			



伯方島テラス全景

【伯方島テラス】
・民間企業等で構成された「伯方島まちづくり㈱」（日鮮海運、馬越工務店、伊予銀行等）が市と連携して整備した施設。カフェやアンテナショップはクリエイション伯方島が運営している。

標　題	**いちご炭疽病の診断と栽培管理の点検を実施**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月３日	場所	東温市（南吉井、北吉井、拝志）	
指導対象	いちご生産者（５人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）	
普及指導内容	○いちご若手生産者グループ「だんだんの会」の技術力向上を図るため、第３回炭疽病防除対策勉強会を開催した。 ○炭疽病は、輪斑病との見分けが目視では困難な場合があるため、生産者が持ち寄った苗を使い、顕微鏡観察による病害の診断・同定を指導した。 ○また、ほ場を巡回し、伝染源となる親株の古葉除去や定期的な薬剤散布に加え、適正な肥培管理、排水改善、適時適量のかん水などの栽培管理状況を点検した。			
結果と今後	○参加者は、顕微鏡の操作と診断・同定手法を習得したほか、発病株の早期発見・早期除去や健全苗の育成など、栽培管理の重要性について理解を深めた。 ○当室では、引き続き、定期的にほ場巡回を行うとともに、雨よけ底面給水育苗の実証などを通じて被害軽減を図り、安定生産を支援する。			





左：顕微鏡で分生子の有無を確認

右：ほ場の栽培管理を点検

標　題	**現地で新規就農者を指導**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月３日～25 日	場所	松山市、東温市内各地	
指導対象	新規就農者（77 人）	連携機関	松山市、東温市	
普及指導内容	○新規就農者の安定的な経営を支援するため、延べ 15 日間に及ぶ現地指導について、本年度、初めて行った。 ○具体的には、出荷などの経営状況やほ場管理等についての聞き取りを実施し、かん水や病害虫防除、高温対策等の技術指導を行い、課題解決に努めた。			
結果と今後	○新規就農者の多くは概ね順調であったが、農作業の遅れや計画との乖離が目立つ一部の対象者には、関係機関と連携し、指導を強化する。 ○２月には、本年度の新規就農者を対象に加え、再度、現地指導を実施する。			





左：生育状況の確認

右：かんきつ苗の管理指導

標　題	防除威嚇機による鳥類被害対策の実証を開始		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 17 日	場所	松山市平田町	
指導対象	農業指導士（１人）	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	○カラスやヒヨドリによる深刻な果実被害を受けた生産者の要望により、「鳥獣被害防止総合対策交付金」を活用した防除威嚇機「ボイスボスⅡ」の実証を開始した。 ○当日は、農産園芸課や開発メーカーとともに、３台の機器で柑橘園地を音で覆うように設置した。			
結果と今後	○当室では、今後、定期的に園地への飛来や被害の状況を確認する。 ○また、柑橘生産者等へ広く周知し、情報共有を図る。			




左：「ボイスボスⅡ」の設置作業

右：「ボイスボスⅡ」の設置状況

標　題	愛媛果試第 28 号 100%ジュースで消費者へ情報発信		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 23 日	場所	松山市中島長師	
指導対象	姫たちばな会員（８人）	連携機関	－	
普及指導内容	○同組織は、令和７年産「愛媛果試第 28 号」の果汁 100%ジュースを、第 38 回トライアスロン中島大会メイン会場で初めて販売し、消費者交流と中島の魅力を発信した。 ○会場では、選手や応援に来島した一般消費者等へ、カップ入りと瓶入り（720ml）のジュースを販売するとともに、新たに作成した活動紹介のパンフレットを配布し、組織の活動や会員の柑橘ジュースを PR した。			
結果と今後	○カップ入りが計 51 杯、瓶入りが計 15 本販売された。 ○過去３年間に試飲した消費者が購入するなど、これまでの活動成果が確認できた。 ○今後、同組織では先進地視察やせん定技術研修を予定しており、当室は会員の更なる資質向上に向けて支援していく。			

【姫たちばな】
中島地域の女性農業者で構成。技術研修や先進地視察により、資質向上に取り組む他、各種イベントへの参加や、SNS を通して中島の魅力を発信している。



大会のメインステージ


ジュースの販売ブース

標　題	青年農業者らが食料品の消費税減税等について学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 26 日	場所	松山市役所中島支所	
指導対象	中島青年農業者協議会会員ほか（14 人）	連携機関	―	
普及指導内容	○当室では青年農業者等を対象に、令和９年４月に予定されている食料品を対象とした消費税減税が農業経営に与える影響について、和泉由紀夫税理士を講師に迎え、経営研修会を企画・開催した。 ○講師から簿記記帳の実務解説を受けた後、参加者は日頃感じている簿記記帳の疑問などについて、質疑応答を通じて解決を図った。			
結果と今後	○終了後、個別に相談する会員もおり、関心の高さがうかがわれた。 ○今後、同協議会では他地区との交流会や先進地視察、せん定技術研修を予定しており、当室は会員の更なる資質向上に向けて支援していく。			



講師の解説に耳を傾ける受講者

標　題	JA 松山市青年部が下難波地区の基盤整備園で視察研修を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 28 日	場所	松山市下難波地区	
指導対象	JA 松山市青年部（興居島地区）かんきつ農家（４人）	連携機関	JA 松山市	
普及指導内容	○基盤整備園での土づくりやスマート農業について理解を深めるため、先進地視察研修が行われた。 ○当室から、基盤整備園での緑肥作物による土づくりの実証や、気象モニタリングシステムを活用した適期防除を紹介し、参加者は同園地の農家と意見交換を行った。			
結果と今後	○参加者からは、「数年前に視察した時と比べ、土壌改良が進んでおり、初期生育には、土づくりが重要であることが理解できた」「現在、興居島で基盤整備を進めており、とても参考になった」「基盤整備とスマート機器を組み合わせることで営農の効率化が可能であることが理解できた」との意見があった。 ○当室では、今後とも、基盤整備予定の農家に対し、緑肥作物による土づくりや苗木管理について情報提供を行っていく。			





左：生産者との意見交換

右：緑肥栽培の実証園地

標　題	**七折小梅の安定生産へ　～栽培管理を徹底～**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和８年８月４日	場所	JA えひめ中央本所	
指導対象	農事組合法人ななおれ梅組合 生産農家(17 戸)	連携機関	JA えひめ中央、県内卸売市場	
普及指導内容	○市場関係者等との協議を行う同組合決算会において、当班は、今年産の作柄・出荷状況を踏まえ、栽培管理の徹底による安定生産とブランド力の強化を呼びかけた。 ○具体的には、適切な栽培管理により前年産並みの生産量を確保した園地の事例を提示し、適期の施肥や整枝・せん定管理の徹底を促した。 ○さらに、環境負荷低減に配慮した効果的な施肥設計や病害虫防除などについて技術的な助言を行い、安定生産への意識啓発を図った。			
結果と今後	○今後、当班では、次年産の収量確保に向けた技術研修を行うとともに、深刻化する労働力不足を補うため、新規就労者（年間・収穫時期雇用等）の確保に向けて、より有効な SNS の活用方法や求人に係る手順について提案していく。			



決算会にのぞむ生産農家

標　題	**「ひめの凜」の品質向上に向けた穂肥講習会を開催**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和８年８月４日、７日	場所	JA（えひめ中央伊予中央支所、全農えひめ農業技術センター)、 伊予市森、松前町徳丸	
指導対象	ひめの凜認定栽培者（76 人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央)、農林水産研究所	
普及指導内容	○当班は、今年度の気象状況を踏まえ、穂肥診断手法や幼穂形成期から成熟期までの栽培ステージに応じた水管理のほか、収穫適期の見極めや乾燥調製方法等を指導した。 ○具体的には、現地ほ場において、カッターナイフを使った幼穂長の計測や葉緑素計を用いた栄養状態の測定を実演し、穂肥の適切な施用時期・量の判定方法を説明した。			
結果と今後	○栽培者からは、「穂肥の施用量と時期の目安がよく理解できた」との評価が寄せられるなど、「ひめの凜」栽培に対する強い意気込みが感じられた。 ○今後、当班では、９月下旬の収穫期に向け、斑点米カメムシ類防除の徹底と適切な水管理について切れ目なく指導を継続し、「美味しさ基準」の達成と一等米比率の向上を支援していく。			





左：室内講習会（JA 全農えひめ農業技術センター）

右：現地ほ場において幼穂長の見方を指導

標　題	健全な果樹園を目指して土壌分析を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和８年８月 19 日	場所	JA えひめ中央野菜選果場	
指導対象	管内果樹生産者（196 人）	連携機関	伊予地区農業技術者連絡協議会果樹部会	
普及指導内容	○当班は、長年の栽培による土壌酸性化を解消するため、同部会員である伊予市及び砥部町のキウイフルーツ・かんきつ等の栽培者から希望を募り、423 点の土壌サンプルを対象に EC・ｐH を測定した。			
結果と今後	○測定の結果、適正値のｐH６程度に対し、ｐH４を下回る強酸性園地が 20 園地ほど判明し、早急に土壌改良が必要な事例として部会員間で共有した。 ○また、結果に基づく適正量の石灰施用や施肥の見直しなど、個別指導を行うことを申し合わせた。 ○今後、当班は、指導の効果検証を部会で共有しつつ、産地全体の土壌健全化を目指す。			



分析中の土壌サンプル

12　果樹の土壌改良
(1)酸度のきょう正
ア　苦土石灰等の施用量
施用量は、ｐHを調べ、陽イオン交換容量（ＣＥＣ）に応じて決める。その調査位置は地表下15cmの根群分布域とする。

表１　矯正苦土石灰量

pH（H_2O）の範囲	苦土石灰施用量 kg／10ａ	
	低ＣＥＣ土壌	高ＣＥＣ土壌
5.0 － 5.4	80	120
4.5 － 4.9	120	150
4.4 以下	160	200

表２　種類別好適ｐH

種　類	好適ｐH（H_2O）
かんきつ	5.5 － 6.3
びわ	5.2 － 6.1
かき	5.5 － 6.1
もも	4.9 － 5.2
ぶどう	6.0 － 7.0
なし	5.2 － 6.1
キウイフルーツ	6.0 － 7.0

適正 pH（県施肥基準抜粋）

標　題	広田自然薯組合夏季研修でハダニ類防除等を指導		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和８年８月 21 日	場所	砥部町広田地区	
指導対象	組合員、伊予農業高校生（25 人）	連携機関	県立伊予農業高校	
普及指導内容	○当班は、現地ほ場の巡回において、ハダニ類の適期防除や散布方法を指導した。 ○参加者は、組合の育苗ハウスにおいて、伊予農業高校が提供したウイルスフリー苗の生育状況を確認した。 ○室内研修会では、高校生がウイルスフリー苗や弱毒ワクチン利用の取組発表を行い、当班からは害虫の正確な判別意義と具体的な識別手法を講義した。			
結果と今後	○当班は、例年発生が見られるハダニ類に対し、次年度は梅雨明け直後の早期防除を提案したほか、課題である水源確保の検討や効率的なかん水方法の指導について、継続することを申し合わせた。 ○また、本年度から一本化される自然薯イベントに向け、好評な「自然薯そば」を効果的に PR する開催方法等を同組合と検討していく。			



組合員ほ場の巡回



ウイルスフリー苗の生育状況確認



室内研修（伊予農高生の発表）

標　題	伊予農高グローバル GAP 更新へ講義と内部審査を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和８年８月 28 日	場所	伊予農業高校、同校白水農場	
指導対象	県立伊予農業高校生等(15 人)	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	○当班は、同校が取得したグローバル GAP（平成 30 年取得）の認証更新に向け、生徒の理解を促す講義と内部審査を実施した。 ○講義では、GAP の概要や国・県の推進状況、国際水準 GAP の基本分野等を説明した。 ○内部審査では、本年度から Ver.6.0 となった基準書に基づき、135 項目について書類確認と現場確認を行い、各根拠書類等の保管場所を把握するよう指導した。			
結果と今後	○参加者からは、「GAP に取り組む意義を改めて確認できた」「取組みを継続し、本審査に臨みたい」等の声が挙がった。 ○９月末の本審査に向け、当班では、指摘の改善や基準書項目の再確認を働きかけ、GAP の取組みを通じた持続可能な農業の実現を促す。			

【グローバル GAP】
「持続的な生産活動」を実施する農業者に与えられる世界共通の認証制度。認証機関による審査が必要。
国際水準 GAP の５本柱
①食品安全　②環境保全
③労働安全　④人権保護
⑤農場経営管理



書類確認



保管庫の現場確認

標　題	伊予花き研究会が県内花き生産者と共に市場関係者に生産物をアピール		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和８年８月 29 日	場所	ウェルピア伊予ほか	
指導対象	伊予花き研究会員（４戸）	連携機関	県内花き生産者、県内外市場関係者、運送業者	
普及指導内容	○当班は、同会員や県内花き生産者と県内外市場関係者を繋ぐとともに、物流の円滑化に向けて運送業者も交えた意見交換の場を企画・調整した。 ○有利な取引に向け、会員には事前に市場ニーズに沿う出荷計画の策定を促した。 ○当日は、会員が、展示した花きの品質をアピールした後、市場関係者の生の声を引き出す対話を仲介し、参加者 38 人の意思疎通の深化を図った。			
結果と今後	○会員は、来年夏までの全体出荷計画を共有するとともに、秋以降の計画策定を申し合わせた。 ○当班は、今後も定期的な情報交換を促し、市場連動型の生産体制構築と取引の最適化を進める。			





左：会員・市場関係者・運送業者による情報交換会

右：市場関係者と商談中の会員

標題	**雑穀栽培講習会の開催**		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和８年８月 25 日	場所	久万高原町久万	
指導対象	雑穀新規栽培者等（９人）	連携機関	－	
普及指導内容	○当班は、安定生産や出荷促進を図るとともに、継続的な栽培を促すため、講習会を開催した。 ○参加者は、室内において倒伏防止や害虫対策、収穫・乾燥調製作業のポイントなどの説明と情報交換を行った後、指導班の実証ほ場で栽培状況を見学した。			
結果と今後	○情報交換では、梅雨明け以降の高温少雨の影響により、草丈の抑制やアブラムシ類・アワノメイガの発生などが報告された。 ○当班は、今後、個別巡回を行い、害虫対策や適期収穫、道の駅などへの出荷を呼びかける。 ○また、農業者団体等への周知を進め、広く会員募集を行い、新規会員の獲得に取り組む。			





左：講習会

右：実証ほ場の見学

標　題	**久万高原トマトの秀品率が大幅アップ**		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和８年８月 26 日～	場所	久万高原町内各地	
指導対象	久万高原トマト部会（81 人）	連携機関	JA 松山市	
普及指導内容	○当班では、トマトの高温対策として裂果や軟化しにくく高品質の硬玉系品種「桃太郎みなみ」を実証・推奨してきたが、同部会は今年度から同品種を本格的に導入し、総栽培面積の 85%を占めるまで拡大した。 ○また、JA 松山市は今年度、選果機を更新しており、AI 機能を搭載したセンサーカメラを導入したことで、高精度の品質選別が可能となった。			
結果と今後	○秀品率は、８月中旬までの集計で 61.8%と、昨年同時期の 19.2%から大幅に向上し、品質向上が確認された。 ○当班は、引き続き、新品種の普及拡大並びに安定生産技術を推進し、生産量の確保や品質向上による市場シェアの獲得・維持に努める。			





左：「桃太郎みなみ」の秀品

右：栽培中の「桃太郎みなみ」

８月 26 日時点
12～14 段開花　7～8 段収穫

標　題	**調査・実証結果をそらまめ生産者へ普及**		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和８年８月 24 日	場所	JA えひめ中央南部営農支援センター	
指導対象	そらまめ生産者（17 戸）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	○当室は、令和９年産そらまめの栽培開始に向け、栽培講習会を開催した。 ○講習会では、地方局予算「そらまめ産地化強化事業」での取組状況を踏まえ、生育状況調査に基づく栽培の注意点や、実証で効果が確認された「マルチ種類の変更」や「株間の拡張」などを説明した。			
結果と今後	○参加者からは、マルチの地温上昇抑制効果や整枝方法等について活発な質問が寄せられ、「引き続き、JA や生産者とともに単収向上を目指して活動してほしい」との期待の声が聞かれた。 ○９月中旬頃には、JA 松山市での栽培講習会を予定しており、当室は、そらまめ産地の維持・発展を図るため、管内生産者へのきめ細かな指導を進めることとしている。			



講習会に参加する生産者

標　題	**鉢物栽培において環境データの活用を支援**		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和８年８月 25 日	場所	伊予市市場、松前町中川原	
指導対象	伊予花き研究会生産者（２人）	連携機関	マスプロ電工(株)、宮地電機(株)	
普及指導内容	○当室の紹介により、比較的安価な CO_2 温湿度センサー機器を導入した鉢花生産者のハウスにおいて、当該機器の設置や設定を支援した。 ○設置において、直射日光等の影響を避け、センサーの位置が葉の高さになるよう指導するとともに、測定データが生産者のスマートフォン及び当室の PC で確認できるよう、機器を設定した。			
結果と今後	○生産者からは「勘に頼っていたが、今後は温度や湿度・二酸化炭素濃度のデータを基に、細やかな管理ができることを楽しみにしている」「ハウス内環境を遠隔で随時確認できて便利だ」などの意見が寄せられた。 ○当室では、取得データの分析・評価を継続的に実施し、栽培管理指導に活用するほか、本取組の成果や有効性を広く周知し、データ活用による栽培管理手法の導入を促進する。			





左：CO_2 温湿度センサー

右：センサーと PC の通信設定

標　題	**特栽米「三間米」の生産・販売を支援**		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月６日	場所	宇和島市三間町	
指導対象	三間町特別栽培米生産組合（10 名）	連携機関	㈱今治デパート	
普及指導内容	○同組合では、高騰する肥料価格を踏まえ、牛糞や油かすを独自に組み合わせた、低コストの施肥体系で生産計画を策定するとともに、エコえひめ認証を取得している。 ○「三間米」は、県内スーパーや道の駅、全国の顧客、また宇和島市のふるさと納税返礼品としても出荷しており、当室は技術指導や販売対策等を支援している。 ○早期米の刈取りに先立ち、収穫前の水管理および乾燥調製の留意点を徹底した。			
結果と今後	○各ほ場で籾の黄変率に応じた刈取り適期を徹底すること、収穫作業は安全確保と熱中症に注意すること等を申し合わせた。 ○今後も、安心の付加価値を付けた「美味しい三間米」の生産・販売活動を支援していく。			



収穫前管理の講習

標　題	**青年農業者の出会いを応援！**		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年８月 29 日	場所	吉田公民館、観光ふじぶどう園（大洲市）、ビストロエビス（宇和島市）	
指導対象	宇和島市青年農業者連絡協議会会員（20 人）、一般参加女性（11 人）	連携機関	宇和島市	
普及指導内容	○一次産業に関心のある一般女性と青年農業者の交流会を開催した。 ○初対面でも共通の趣味などをきっかけに会話が促されるよう、プロフィールシートを活用した自己紹介を企画するなど、主催となる青年組織の運営を支援した。 ○ぶどう狩り体験とフリートークイベントにより、体験を通じた自然な交流を創出した。			
結果と今後	○参加者からは、プロフィールシートの活用により「会話が弾んだ」と好評を得た。 ○青年農業者が自身の営農について紹介する機会が多くみられ、参加女性は、地元農業への理解を深めていた。 ○仲が深まり、後日会う約束をする参加者が見られるなど、一定の成果があった。今後も、より効果的な青年農業者の出会いの場づくりを支援する。			





左：プロフィールシートを活用し自己紹介する参加者

右：ゲームをしながらぶどう狩り

標　題	**桃の新規生産者が鬼北町で誕生**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和８年８月 21 日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	桃新規生産候補者（１人）	連携機関	鬼北町、JA えひめ南	
普及指導内容	○生産量が減少傾向である桃産地の再興のため、新規生産者の掘り起こしに取り組んできたところ、町内在住の候補者と、栽培について具体的な話し合いが進んだ。 ○候補者は、西予市の農地で柑橘を栽培しているが、桃にも関心があるとのことから、当班が作成した桃（生食用と加工用）の経営指標を示すとともに、高所得が期待できることや作業体系で柑橘と競合が少ないことを説明した。			
結果と今後	○この結果、候補者が鬼北町の農地 13a で栽培を開始することとなった。 ○近年、鬼北町で販売用桃の栽培は行われていなかったため、隣接する松野町と合わせ、桃産地再興に向け、地域への波及効果も期待できる。 ○候補者に対し、今年度中の新植に向け、品種選定や土壌改良、排水対策の支援を行う。			



桃の樹形や栽植密度を説明

標　題	**栗生産においてドローン防除への期待が膨らむ**		機関名	南予地方局農業振興課 鬼北農業指導班
年月日	令和８年８月 20 日～	場所	鬼北町、松野町内各地ほ場	
指導対象	JA えひめ南鬼北栗同志会（７人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○生産者の高齢化や夏季高温下での防除作業が困難になっていることを受け、令和６～７年度にかけて、省力化と正品率向上を目指して、栗のドローン防除の実証試験に取り組み、虫害による被害果を 1/7～1/2 程度まで低減できることを明らかにした。 ○この結果をもとに、栗のドローン防除の普及に向けた取組意向を調査した。			
結果と今後	○調査の結果、7 戸の生産者から合計約 200a の委託依頼を受け、順次、業者による防除を実施している。 ○ドローン防除への期待と需要を確認できたことから、今後はドローンによる施肥についてもその効果を実証し、更なる作業の省力化・効率化を目指す。			



栗生産者が期待するドローンでの防除

標　題	**青年農業者が地域を超えて交流・技術研鑽**		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和８年８月 20 日	場所	愛南町御荘菊川・御荘平山・緑	
指導対象	愛南地区及び八西地区青年農業者連絡協議会会員（参加者 22 人）	連携機関	(株)吉田農園 八幡浜支局地域農業育成室	
普及指導内容	○かんきつ生産者の事例紹介を通じて、農業経営の課題共有、相互交流及び技術研鑽を図るため、両地区の青年農業者が合同で園地互評会を企画し、開催した。 ○ドローンのみによる防除体系の実証状況、チェーンブロックを活用した抜根方法、防鳥ネット・かん水設備の自主施工例について情報共有したほか、(株)吉田農園の代表者から同社の取組、労働力確保及び販売戦略等について講演を受けた。			
結果と今後	○参加者からは「農業経営で活用できるか検討したい」「南予で農業に取り組む仲間の苦労が垣間見えた」と、今後の経営発展やネットワーク形成に意欲的な反応があった。 ○当班は、今後も、青年農業者の活動範囲や考え方、交流の幅が広がる組織活動として、他地区協議会との連携を図るとともに、資質向上と経営発展を支援する。			



チェーンブロックの抜根実習



自主施工したかん水設備の紹介



吉田代表による講演

標　題	**青年農業者らが農作業安全について学ぶ！**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和８年８月５日	場所	JA にしうわ農機具センター	
指導対象	青年農業者等（８人）	連携機関	JA にしうわ	
普及指導内容	○当室では、就農初期の青年農業者や農業研修生などを対象に、かんきつ栽培基本技術などの習得を目的とした「マンダリン・シトラス合同スクール」を年間６回開催している。 ○第３回目となる今回は、農作業安全の確保に向けた「農業機械のメンテナンス」と「トラックロープの荷台への結び方」について、講習会及び現地実習を実施した。			
結果と今後	○参加者からは「農業機械の手入れ方法を学ぶいい機会になった」「これまで自分ではできなかったチェーンソーの目立てに挑戦してみたい」などの声があり、農作業安全意識の向上や技術習得に対する高い意欲がうかがえた。 ○次回は９月に「みかん研究所視察」を予定しており、引き続き、青年農業者らのかんきつ栽培基本技術の定着に向けた支援を行う。			





左：農業機械のメンテナンスを学ぶ青年農業者ら
右：ロープの結び方を実習

標　題	**大洲喜多地区女性農業者組織ネットワークの活動強化に向けて連携会議を開催**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和８年８月５日	場所	大洲庁舎	
指導対象	女性農業者組織役員（９人）	連携機関	大洲市、内子町	
普及指導内容	○当班は、令和７年度に女性農業者等で構成される３組織を繋ぐ「大洲喜多地区女性農業者組織ネットワーク」を立ち上げ、組織活動の活性化を支援している。 ○今回開催した連携会議では、活動の継続性と充実強化、連携促進を目的に、各組織の役員が参集し、それぞれの活動紹介や今年度の活動等について協議した。			
結果と今後	○ネットワークとしての活動歴は浅いものの、参集者は女性組織の活動を盛り上げようとやる気に溢れており、郷土料理づくり体験・レザー加工品のワークショップによる会員間交流や、構成組織「ぷらいまりぃ」が実施するハウスマルシェへの出展などにより組織間で連携した活動をすることとなった。 ○今後も定期的に連携会や交流会等を開催し、連携活動について提案を行うなど、支援を継続する。			



左：活動内容について協議

【大洲喜多地区女性農業者組織ネットワーク構成組織】
・大洲喜多地区生活研究会
・大洲・内子いきいきネットワーク（女性農業委員のグループ）
・ぷらいまりぃ（一次産業女子のグループ）

標　題	**天敵を活用した抑制きゅうりの害虫防除実証を開始**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和８年８月 21 日	場所	大洲市東大洲	
指導対象	実証協力農家（１人）	連携機関	JA 愛媛たいき、病害虫防除所、農産園芸課	
普及指導内容	○管内の抑制きゅうり栽培では、近年、タバココナジラミが媒介する「きゅうり退緑黄化病」の防除対策が課題となっている。 ○このため、昨年度、アザミウマ類の防除効果を確認した天敵（タバコカスミカメ、スワルスキーカブリダニ）を放飼し、その効果を実証することとした。 ○実証ほの設置にあたり、協力農家には、効果的な使用方法について予め理解を深めてもらうため、天敵の生態や放飼手順、農薬使用の注意点等を説明した。			
結果と今後	○今後、天敵の定着・増殖状況とタバココナジラミの発生状況を調査し、天敵による害虫密度の抑制効果を確認する。 ○また、防除作業の省力化や天敵導入のメリット、デメリットなどを検証し、高品質生産に向けた産地への技術導入・普及を支援する。			







左：スワルスキーカブリダニ（天敵）
中：タバコカスミカメ（天敵）
右：天敵を放飼する生産者

標　題	**安全安心な秋冬野菜の栽培に向けた研修会を開催**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和８年８月 25 日	場所	内子町東自治センター	
指導対象	からり直売所出荷者運営協議会員（43 人）	連携機関	（株）内子フレッシュパークからり	
普及指導内容	○当班では、農産物直売所「からり」に出荷する生産者を対象に、安全・安心な農産物の高品質・安定生産を目指し、ほ場巡回や技術研修会（６回程度/年）を定期的に実施している。 ○２回目となる今回は、これから作付け時期を迎える秋冬野菜（ダイコン、ブロッコリー、ハクサイ、キャベツなど）の栽培技術や病害虫対策について指導を行った。			
結果と今後	○参加者からは「高温条件下でも安定して栽培できる品種や対策について教えてほしい」などの質問があり、近年の気候変動対策に対する意識の高さが感じられた。 ○指導班は、引き続き、「からり」を核とした地域農業、地産地消の推進を支援していく。			




熱心に勉強する出荷者の様子

標　題	**定期巡回でトマトキバガの対策順調！**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和８年６月～	場所	西予市城川町高川・遊子川	
指導対象	夏秋トマト・ミニトマト生産者（13 人）	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	○西予市城川町の夏秋トマト・ミニトマトは、昨年、トマトキバガの幼虫による葉や果実の被害が多発し、生産性が低下したため、当班は JA と連携し定期巡回を強化し、防除対策を徹底している。 ○これまでに、昨年の発生時期や発生程度の聞取りのほか、今年の初発時期の確認や発生初期からの効果的な防除指導、防除効果の確認を入念に行った。			
結果と今後	○この指導強化は、農家の防除意識向上に繋がっており、現在のところ目立った被害は確認されていない。 ○当班では、今後も、夏秋トマト・ミニトマトの安定生産に向けた栽培管理や病害虫防除指導に取り組んでいく。			




左：ほ場を定期巡回
右：トマトキバガの幼虫

【トマトキバガ】
成虫で 7㎜ 程度の小さな蛾
県では令和４年に初確認

標　題	**いちごの育苗ハウスで高温対策の実証開始**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和８年７月～	場所	西予市宇和町多田	
指導対象	JA ひがしうわいちご部会（10 人）	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	○管内のいちご栽培では、育苗期間中の高温が問題となり生産性が劣る事例が散見されている。 ○そのため、当班では、気候変動適応産地づくり総合対策事業（R8～）の一環として、いちご育苗ハウスに外気を強制的に導入し、ハウス内の温度上昇を抑える現地実証試験を開始した。 ○実証ほでは、７月から外気導入装置を設置し、ハウス内の温度・湿度、苗の生育状況を調査している。			
結果と今後	○今後は、花芽分化・果房出蕾の遅延程度や、定植後の芽無し株の有無、着果数等について調査し、高温対策としての有効性を検証する。 ○実証結果は、生産者、関係機関と随時共有し、スムーズな技術の普及につなげる。			



外気導入装置（ハウス外側）

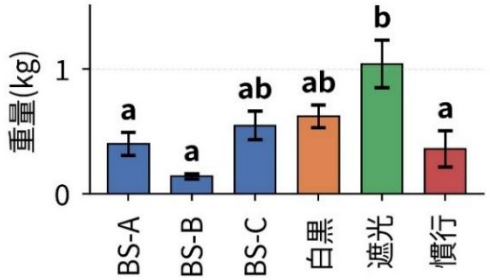


外気導入装置（内側）



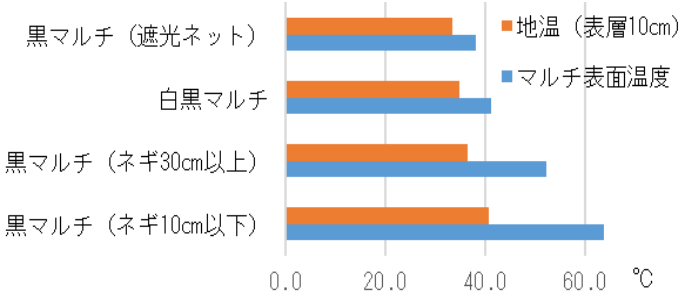
外気導入装置（ダクト）

標　題	**青ねぎの気候変動対策に遮光ネットが効果あり**		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和８年８月 25 日、28 日	場所	西予市野村町野村、内子町長田	
指導対象	青ねぎ生産法人（２社）	連携機関		
普及指導内容	○近年の夏季異常高温等の気候変動により、青ねぎの８月・９月の生産量が大幅に減少し、周年供給体制の維持が困難となっている。 ○５月末に定植した青ねぎを用いて、遮光ネット、BS 資材３種（２週間おき３回散布）、白黒マルチによる気候変動対策の実証試験を実施し、生育を調査した。			
結果と今後	○調査の結果、BS 資材と白黒マルチは慣行と比較して有意な差が見られなかったが、遮光ネットありは 10 株当たりの重量が慣行の約 2.9 倍となり、有意な差が確認できた。 ○遮光ネットなしの黒マルチ表面温度は 50℃を超え、生育差の一因と考えられた。 ○遮光ネットありは、収量増に加え肉厚で品質も良好であり、生産者は来年度の導入を希望していることから、今後、補助事業の活用等による導入を支援する。			



青ねぎの 10 株当たりの重量（8/28）

※異なる英字間で有意差あり（Tukey HSD 法、危険率 5%）



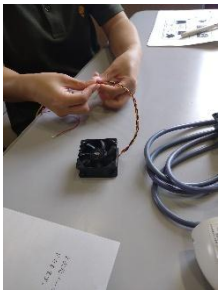
マルチ表面の温度と地温（8/25　13 時　晴れ 34℃）

標　題	**データ駆動型施設野菜栽培実証事業に係るデータ分析・活用講習会、製作講習会を開催**		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和８年８月 21 日、27 日	場所	花き研究指導室	
指導対象	生産者・JA 全農えひめ・関係 JA・普及職員（66 人）	連携機関	JA、松山市農業指導センター、株式会社誠和。	
普及指導内容	○当課では、データ駆動型施設野菜栽培実証事業に係る講習会を開催し、８月 21 日には株式会社誠和。から講師を招き、環境制御技術と測定した環境データの活用方法について理解を促した。 ○また、同 27 日には低コスト環境計測機器のメンテナンスとコンピュータのプログラミング方法について説明し、継続して測定が可能となるよう体制を整えた。			
結果と今後	○環境モニタリングでは目的をもってデータ測定を行うことが重要であることなど、関係者間で再確認し、３年目となる事業開始に向けて意識統一を図った。 ○低コスト環境測定機器は複雑なプログラミングを行わずとも複製が可能であるため、モニタリング実施圃場を手軽に拡大できる。 ○また、現場からは「土壌水分を測定したい」などの声も聞かれ、今後、センサー利用場面の拡大と普及が期待される。			



環境制御講習会を開催





低コスト環境測定機器をメンテナンス

標　題	**令和８年度愛媛県スマート農業推進協議会を開催**		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和８年８月 19 日	場所	果樹研究センター	
指導対象	－	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	○県では、大学や農機メーカーと連携の上、スマート農業推進協議会を設立し、スマート農業の速やかな現場実装を通じた儲かる農業の実現に向け、「愛媛県スマート農業推進方針」を策定している。 ○今年度、本方針に定める全体方策が中期の２年目にあたり、研究・実証段階から現地実装への移行を進める時期となることから、これまでの成果と課題の共有や意見交換を通じた次期推進目標の設定を目的として、スマート農業推進協議会を開催した。			
結果と今後	○意見交換では、スマート農業を普及・定着させるためには、デジタル人材の育成が不可欠であるという意見が挙がった。 ○今後は、協議会内で委員から承認を得た推進目標の達成に向け、関係機関の連携のもと、地域全体でのスマート農業の推進を目指す。 ○また、本協議会で得た意見は、今後のスマート農業施策へ反映させていく。			




協議会委員による意見交換

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町久万 571-1 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市南大門町2丁目5番地1 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町久万 571-1 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543